



下字

午後

山の上の

第一草

晩秋。山の上にかき草の葉が落ち、古い寺の庫裡

の一部分。正面十畳の向。廻り濡れ縁。ついで

乙園の方へ次の向。山の上の意。玄園の一

部分かけを見えぬ。丸窓の向が叩つてある。玄

南から下へ下へ、あつたところ

の方へ段々あつて、そこを下つて

縣道へ出るとり。梧桐の玄園の横へ一本、

特に目立つ。山茶花の咲きあつて。上手下へ

崖下の縣道を見下す。庭園の横へ上手

には松の山あつた。

正面に一回の向。山の上の

浪の音があつた。玲子と洋子が下へ

に立つて、見物にうしろを向して

白いレイツをかけた夜更の山に

お、秀作は寝床の上で起つてゐる。長い病苦

に裏へ叩つてゐる。熊心である。

かつらと鈴男が父の左に坐つてゐる。かつ

らは父の咳をよすたんに父の死を

見守る。

秀作は杖を握り、懐中時計を抱へては時向を

見守る。

秀作。光子も追々子供は立ちあ

いと時向が心配だ。

汽車の

改造印

MARUZEN

